

TOPICS
5社会福祉法人 風の馬
特別養護老人ホーム「アリオン」

自分らしく、いきいきと。
地域に開かれた在宅総合支援施設を開設。

ペガサスグループの社会福祉法人 風の馬は、12月1日に特別養護老人ホーム「アリオン」を開設します。アリオンでは、少人数グループごとに専用の居住空間と専任の職員を配置し、個別ケアによる24時間の暮らしを支えるユニットケアを提供します。また、入居設備に加え、デイサービス、居宅介護支援事業所を併設するとともに、地域の方々との地域交流室を設置。ご自宅で療養される方と、そのご家族を支える在宅支援施設をめざしていきます。



お問い合わせ／TEL:072-245-9640

TOPICS
7株式会社ユニコ
紙おむつ販売について

堺市の紙おむつ給付券が利用可能。
在宅医療支援の一端を担っています。

ペガサスグループの一員で、介護職員研修事業、治療支援事業などを展開する株式会社ユニコでは、在宅支援

TOPICS
6

ペガサス健診センター

さまざまなライフスタイルに合わせて、
あなたの健康を万全の体制でサポート。

ペガサス健診センターでは、最新鋭医療機器による高度な検査、専門医による検査結果の説明、管理栄養士などによる日常生活習慣改善のアドバイスなど、安心・充実した健診体制を備えています。健診メニューには一般・脳ドックをはじめ、動脈硬化・もの忘れドックなど、馬場記念病院の医療機能を活かしたメニューも幅広くご用意しています。また、特定健診、企業健診、乳がん検診なども行っています。



お問い合わせ／TEL:072-265-6006

事業の一つとして、福祉用具・介護用品各種の販売を実施しています。そのなかで、紙おむつについては、堺市の紙おむつ給付事業の指定業者に登録。ユニコで販売する紙おむつは、堺市の紙おむつ給付券(※)をお使いいただくことができます。また、いずれの用品も、ご自宅への配送を行っています。どうぞお気軽にご利用ください。

お問い合わせ／TEL:072-263-3001
※堺市が高齢者支援として交付する、紙おむつと交換可能な給付券。

ペガサス医療体験デイ 就活バージョン



毎回好評の「ペガサス医療体験デイ 就活バージョン」。看護師、リハビリテーションスタッフ、薬剤師、介護職員をめざす学生の方や既卒の方を対象に、院内体験見学や就職についての説明会を開催しています。お気軽にご参加ください。

お問い合わせ／TEL:072-265-9089

看護師
求人サイト看護師
動画サイト

詳しくはペガサスのホームページをご覧ください。http://pegasus.or.jp/

正職員採用 私たちと一緒に働きましょう。
介護職員募集中! —— 随時受付しています。

ペガサスでは今、介護職員を募集中です。いつでもご連絡いただければ、ペガサスグループの施設見学などへご案内します。どうぞお気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ／馬場記念病院 人事課 TEL：072-265-9089

12月 ペガサスセミナー

大腸ポリープと大腸癌

講師：馬場記念病院
消化器科医師 阿部菜海
日時：12月18日(木)午後2時～3時
場所：馬場記念病院 1階ロビー

12月 ペルセウス介護支援セミナー

すぐに出来る
「お着替え介助のノウハウ」

講師：介護福祉士 草野明美
介護福祉士 堀 晶子
日時：12月25日(木)午後2時～
場所：介護療養型老人保健施設
ペルセウス 3階食堂

12月 ペガサスセミナー和泉

ご存知ですか？
療養通所介護

講師：看護師 藤田里美
看護師 小谷智美
日時：12月18日(木)午後2時～3時
場所：介護療養型老人保健施設エクウス

PEGASUS
NEWS

ペガサスニュース

発行人／馬場武彦
発行／社会医療法人ペガサス
大阪府堺市西区浜寺船尾町東4-244
http://www.pegasasu.or.jp/
編集／ペガサス広報委員会 編集グループ
編集協力／HIPコーポレーション
発行／平成26年11月28日

Vol. 65

ペガサスから地域の皆さまへ

平成26年 8月、
馬場記念病院のSCUが拡充しました。

平成26年8月1日、馬場記念病院では、SCU (Stroke Care Unit／脳卒中ケアユニット) の拡充を行いました。SCUとは、急性の脳卒中患者を専門に治療を行う病室のこと。発症初期に、脳卒中専門医をはじめとする専門スタッフによる治療のほか、患者3人に対して1人の看護師を配置する濃厚な看護、早期からのリハビリテーションを行うことで、患者さまの救命や早期回復に繋がります。

SCUを増床した理由

馬場記念病院の脳神経外科は、世界的に用いられている「モディファイド・ランキン・スケール」(脳卒中患者の術後の回復程度をみる評価方法)で、術後が良好(日常生活に支障がないレベル)とされる患者さまの割合が、世界と肩を並べる良い成績を残しています。

優秀な実績を残す同院の脳神経外科を、医師とともに支えているのが、看護師をはじめとする放射線技師、薬剤師、リハビリテーションスタッフ、検査技師などのコメディカルです。彼らは、チームとして24時間体制で協働し、患者さまに安心・安全な医療を提供しています。

今回のSCUの拡充は、脳卒中において、日本屈指の治療を提供する馬場記念病院の医療機能をさらに充実させることが目的です。常に満床状態であったSCUの状況を改善し、一人でも多くの患者さまをSCUで治療。そのことにより、手術から手術後まで最高レベルの治療を提供することを図っています。



用意周到に準備を進めました

SCUにおいて、特に中心的な役割を果たすことになる看護部では、今回の拡充に伴い、SCUの看護師を24名に増員。拡充にあわせて1年前から、SCU師長のもと、主任、副主任、脳卒中リハビリテーション看護認定看護師をはじめとするスタッフが協力して準備を進めてきました。

最も力を注いだのが初めてSCUで働くことになる看護師たちの教育。拡充に伴いSCUのある病棟に配属される新人看護師に対して、1年間をかけ、きめ細やかな教育がなされました。「SCUの先輩みたいな看護師になりたい」「脳外をやりたいから馬場記念病院に来た」という熱い思い持つ看護師たちに対し、副看護部長の統括のもと、現場に即した新人看護職員研修教育プログラムを展開。新人の教育を担当する主任看護師、副主任看護師、プリセプター看護師がほぼマンツーマンで指導し、8月1日のSCUオープンを迎えました。

拡充したSCUのもと、さらなる高みへ

オープンから3カ月が過ぎ、すでに看護師をはじめとする現場のスタッフからは、新しいSCUについて、いくつもの改善案が提出、実施されています。そこにあるのは「最上のSCUを創りあげよう」という、スタッフたちの高いモチベーション。稼動を始めた新SCUのもと、全員が最先端の治療を提供する馬場記念病院脳神経外科の名に恥じないよう、高い向上心と強い使命感を持ち働いています。

馬場記念病院ではこれからも、常に地域の皆さまに最高レベルの治療を提供することを追求し続け、皆さまのご期待にお応えしていきます。

シリーズ 29 ペガサス在宅サービスセンター

在宅医療を不安なく迎えられるよう
福祉用具や介護用品の
利用プランを構築します。豊富な品ぞろえに、
専門知識を駆使して、
在宅医療をサポート。

ペガサス在宅サービスセンターは、在宅医療で必要となる介護用品・福祉用具の販売と福祉用具のレンタルを主に行っています。杖や靴、リハビリ箸、車いすといった日用品から、腰掛便座や入浴補助用具、簡易浴槽などご自宅での介護に欠かせないものを販売するほか、購入の難しい特殊ベッドや移動用リフトのレンタルを行っています。

そうしたサービスをご提供するために、現在、在宅サービスセンターには、福祉用具専門相談員の資格を持つ4名のスタッフが在籍。個人ではなかなか判断の難しい、ベッドやポータブルトイレ、リフト、車イスなどに代表される介護用品・福祉用具を、ご本人やご家族が選ぶ際のご相談に乗り、より質の高い在宅医療に繋がる福祉用具の効果的な組み合わせや、手続きの方法をお手伝いしています。

チーム医療の一員として
退院カンファレンスから参加、
より良い在宅医療を提案します。

在宅医療サポートのため、スタッフが自宅退院前カンファレンスから参加するのも在宅サービスセンターの大きな特徴です。退院後は、病院で行っていた介護などをご家族が自宅で行うことになります。それをご家族がスムーズに行うためには、退院前から準備が必要です。その準備の際に生じる問題、疑問、不安などを解消するために、在宅サービスセンターのスタッフも

自宅退院前カンファレンスに参加。主治医、ソーシャルワーカー、看護師、リハビリテーションスタッフ、ケアマネジャーなどのチームと協力して在宅医療・介護の準備を始めます。

たとえば、歩行器が必要な際には、はじめに歩行能力や体幹筋、身長体重、使用目的や住まいのレイアウト、家族の支援態勢などの情報を充分に理解します。その上で、4つの脚がフレームで繋がった構造のものを選ぶべきか、あるいは、キャスター付き歩行補助具が良いのかを考え、ご提案します。またときには患者さまから、入院中に使い慣れたイスや枕などが欲しいというご要望にお応えすることもあります。

出張販売や移動図書館の試み、
勉強会やセミナーへの参加。
ためまぬ努力を続けます。

在宅サービスセンターは、他にもさまざまな活動を行っています。販売に関しては、ペガサス系列の他施設でも行っているほか、ペガサスリハビリテー



ション病院には週に1回出張販売に伺います。また、「医療情報コーナー」の活動も現在力を注ぐもののひとつ。これは、同センターの横に設けられている図書コーナーで、外来患者さまが読むだけでなく、入院患者さまへの貸し出しも行っています。入院患者さまのために、スタッフが週に1回、本を持って病棟を巡回。入院生活での楽しさを提供しています。

これからの課題としては、スタッフのスキルアップが挙げられます。今後ますます必要とされる在宅医療を考えると、利用プランを効率良く提案できるノウハウや、それらの適切な使い方をわかりやすく伝えられるスキルなど、スタッフには、いっそうの努力が求められます。そのため、在宅へ戻られる患者さまとご家族へのご対応から学んだ経験を、スタッフ間で共有して次回に活かせる体制づくりと、院内外での勉強会やセミナー参加の機会を増やし、スタッフが学び続けられる環境を整えたいと考えています。

お問い合わせ／TEL:072-265-9222

福祉用具レンタルの流れ

ケアプランの作成

・ご利用者が、ケアマネジャーにケアプランの相談と作成を依頼。

在宅サービスセンターへ依頼

・ご利用者・ケアマネジャーより、当センターへ福祉用具のレンタルを依頼。

サービスの説明とアドバイス

・当センターのスタッフが、サービスの仕組み・料金の説明や、福祉用具についてのアドバイスを実施。

福祉用具の納品

・ご利用者がレンタルした福祉用具を、委託業者より納品。

ご契約・サービス計画の作成

・ご利用者が商品を確認後、当センターのスタッフが、ご契約・サービス計画を作成。

モニタリング（半年に1回）

・ご利用者の福祉用具の適合状況を、当センターのスタッフが自宅訪問や電話で確認。必要に応じて計画を修正。

TOPICS
1 馬場記念病院
認定看護師高度な看護知識と熟練した技術を持つ
認定看護師たちが活躍中です。

認定看護師をご存知ですか？
これは日本看護協会が認定する資格で、ある特定の看護分野において熟練した看護技術と知識を用いて水準の高い看護を実践できる看護師に与えられるものです。



この認定看護師資格を持つ看護 看護部長 正本恵子師が、馬場記念病院看護部には6名、法人全体では8名（取得予定含む）います。その活躍の場は実にさまざま。自らの分野で専門性を発揮する者、他のスタッフに対して教育指導や患者指導を行う者、そして、組織横断的に活動をする者など、認定看護師としての活動を通じて、病院全体の看護の質を向上させていくことが期待されています。

今後は、法人全体でより多くの分野での認定看護師を増やしていくことを目標に、取得を希望する看護師に対して、これまで以上によりチャレンジしやすい環境を作っていく予定です。また将来的には、ペガサス全体の認定看護師が一緒に会議を行うなど、法人内での連携を高め、より良い看護を提供していきたいと考えています。

◆馬場記念病院看護部在籍の認定看護師

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師	2名
感染管理認定看護師	1名
救急看護認定看護師	2名
皮膚・排泄ケア認定看護師	1名
＜法人在籍の認定看護師＞	
消化器センター がん化学療法看護認定看護師	1名
※教育課程在籍中	
訪問看護ステーション 訪問看護認定看護師	1名

TOPICS
3 馬場満記念クリニック地域の皆さまの期待に応えるため、
4月より整形外科の外来診療をスタート。

ペガサスの原点である馬場病院が、名前を変え誕生した馬場満記念クリニック。和泉市で、総合外来診療に加え脳神経外科、神経内科、消化器科、形成外科の外来診療を行う当院が、今年4月より週2日、整形外科の外来診療を始めました。診療日は月曜日・水曜日で、月曜日は馬場記念病院の整形外科より交代で医師が担当、水曜日は非常勤でスポーツ整形を専門とする滝上順誠医師がそれぞれ診療を担当しています。馬場満記念クリニックは、これからも地域の皆さまのご期待にお応えしていきます。

お問い合わせ／TEL:0725-43-2010

TOPICS
2 ペガサスレスパイトケアセンター在宅介護を行うご家族を支援する
レスパイトケアセンターが開設。

この秋、ペガサスの療養通所介護事業所が2カ所になりました。これまでの「ペガサス療養通所介護」（定員6名）に加え、「ペガサスレスパイトケアセンター」（定員9名）が9月1日にオープン。レスパイトケアとは、在宅で乳幼児や障がい児・者、高齢者の介護を行う家族の負担軽減を目的に、一時的に介護を代替するサービスのこと。ペガサスは、この2事業所で行う児童発達支援、放課後デイサービスなどを通して、在宅介護を行うご家族を支援していきます。

お問い合わせ／TEL:072-262-0006

TOPICS
4 ペガサス多職種事例検討会職種の垣根を超えた検討会で
これからのペガサスを支える人材を育てる。

ペガサスでは、多職種間の理解と連携強化を目的に、昨年より多職種事例検討会を開催しています。検討会は年4回開催予定で、今年度はテーマに「中間管理職になる中堅を育てよう」を掲げ、6月に第1回を、9月を第2回を行いました。馬場記念病院の看護師やMSW、法人内の在宅医療に関わる職種で構成されたメンバーには、ベテランから入職後間もないスタッフまで参加。検討会では、「退院時に、患者さまの意向が軽視されてしまったケース」や「高齢者の夫婦や独居の人が退院する際の生活支援について」などの具体的な事例について、職種ごとの意見や、その職種ができることなどを話し合いました。今後は、若い人材が自分とは違う職種の人たちとより積極的に意見を交換し合うことで、問題に対して気づきや広い視野を持ち、自ら考え、動くことができることを図っていきます。ペガサスでは、この検討会を通じて、これからの法人を支える人材を育成することに力を注いでいきたいと考えています。